

市中病院から展開する大規模研究 ～コホート研究の重要性～



神戸市立医療センター中央市民病院
膠原病・リウマチ内科部長

公益財団法人神戸医療産業都市推進機構
連携研究部 担当部長

大村 浩一郎 氏

「研究」というと大学病院やがんセンターのような専門領域に特化した病院でしか行えないイメージがあるが、やる気と様々なサポートがあれば、一般市中病院でも立派な研究ができるということを、神戸市立医療センター中央市民病院で証明したいと考えて5年間やってきた。もっとも力を入れたのは、詳細で正確な臨床情報を記録した疾患コホートの確立と、その臨床情報に紐づいた臨床検体の保存をきっちりと行っていくことである。すべての膠原病の治療前後で治療前後の検体を保存するだけでなく、全身性エリテマトーデスにおいてはすべての外来受診時の採血検査時に、血漿、末梢血単核球、全血RNAを保存した。このようなコホートはおそらく世界中さがしてもどこにもないだろう。これを可能にしたのは当院が誇る研究サポート体制にある。このコホートを用いた我々独自の、また展開している共同研究につき紹介する。